

不登校の現状と取組について

総合教育会議 【資料1】
令和6年7月2日

1 不登校の定義

【児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）より】

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的な要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの。

2 国・都の方向性

(1)義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

- ・不登校の要因や背景としては、本人・家庭・学校に関わる様々な要因が複雑に絡み合っている場合が多く、更にその背後には、社会における「学びの場」としての学校の相対的な位置付けの低下、学校に対する保護者・児童生徒自身の意識の変化等、社会全体の変化が少なからず影響していることが指摘されている。
- ・そのため不登校を教育の観点のみでとらえて対応することには限界があるとした上で、学校や教育関係者が一層充実した支援や家庭への働きかけ等を行うとともに、学校への支援体制を整備し、関係機関との連携協力等のネットワークによる支援の充実を図ることの重要性が強調されている。
- ・不登校は「問題行動」ではないとの認識が前面に！

(2)COCOLOプラン 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（令和5年3月）

【COCOLOプランで目指す姿】 ※一部抜粋

- 1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えます。
 - ・一人一人のニーズに応じた多様な学びの場が確保されている。
 - ・学校に来られなくてもオンライン等で授業や支援につながるができる。
- 2 心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援します。
 - ・1人1台端末で小さな声が可視化され、心の不安や生活リズムの乱れに教師が確実に気付くことができる。
 - ・教育と福祉等が連携し、子供や保護者が必要な時に支援が行われる。
- 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。
 - ・それぞれの良さや持ち味を生かした主体的な学びがあり、みんなが活躍できる機会や出番がある。
 - ・障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合う雰囲気がある。

(3)令和5年度 第1回 東京都総合教育会議（令和5年10月12日）

テーマ「様々な困難を抱える子供たちの支援の充実に向けて」

【不登校】

- ・不登校の小・中学生数は、過去最多
 - ・学校と全く関わりをもていない子供が約500人存在
 - ・不登校のきっかけは、対人関係によるものや身体の不調等様々
 - ・子供が抱える困難等が、不登校という状況に表出しているという現状がある。
- 学校とのつながりが全くない子供をなくし、一人一人の状況に応じた支援を強化することが必要

3 小平市立学校の現状と取組

(1) 不登校児童・生徒の状況 【資料2・3参照】

- ・全国的な傾向と同様に、本市における不登校児童・生徒数は増加傾向にあり、ほぼすべての小・中学校に不登校の児童・生徒が在籍している状況にある。
- ・また、欠席期間が長期化している人数も増加傾向にあり、半数以上のこどもが90日以上欠席している「長期化」の傾向が見られる。
- ・中学校への進学以降に増加する傾向があるとともに、低年齢化の進行も危惧される。不登校となった要因が小・中学生ともに「無気力・不安」が多い点も特徴的である。

(2) 本市の取組 ⇒5つの視点で重層的な取組を展開 【資料4・5参照】

- ・未然防止…教員等による丁寧な指導・支援のための「生活指導部会」等の充実、不登校対応巡回教員
- ・早期支援…ICT機器を活用した学習支援・相談、スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーの活用
- ・居場所づくり…校内での別室対応、あゆみ教室、不登校対応巡回教員、ティーンズ相談室「ユッカ」、バーチャルスペースこだいら（VLP）
- ・長期化への対応…バーチャルスペースこだいら（VLP）、チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）「上水さくら学級」
- ・家庭への支援…スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー、あゆみ教室・教育相談室、フリースクールの活用等

(3) 一人ひとりが「自分も他人も大切に作る学校づくり」について考える

- ・日常的な学級活動の充実を図るとともに、児童会・生徒会サミットの実施を通して、全市立小・中学校で「自分も他人も大切に作る学校づくり」について考えるための「こだいら特別活動の日」を設定。

4 小平市の今後の方向性【資料6参照】

(1) 楽しく思える、安心できる、学校環境の形成

- ・魅力ある授業、学校行事の実施 ・児童・生徒が意見を表明する機会の確保
- ・すべての児童・生徒を尊重する人権教育の推進
- ・生徒の現状に寄り添った教育課程の編成（上水さくら学級）

(2) 不安や悩みの早期発見、軽減・解消

- ・SOSの出し方教育の推進・生命の安全教育の実施・相談窓口カードの配布・学習者用端末を活用した「つながり」づくり・各種アンケートの実施

(3) 多様な視点からの対応、状況に応じた支援

- ・スクール・カウンセラー・スクール・ソーシャルワーカー等の専門家との連携
- ・学習者用端末を活用した学びの機会の確保 ・教科担任制の推進（小）

(4) 教員の資質向上

- ・不登校児童・生徒の現状と課題を把握し、学校の役割や関係機関との連携を適切に行う「コミュニケーション力」や未然防止と初期対応、寄り添った支援を組織的に実施する「アセスメント力」の向上を図る。

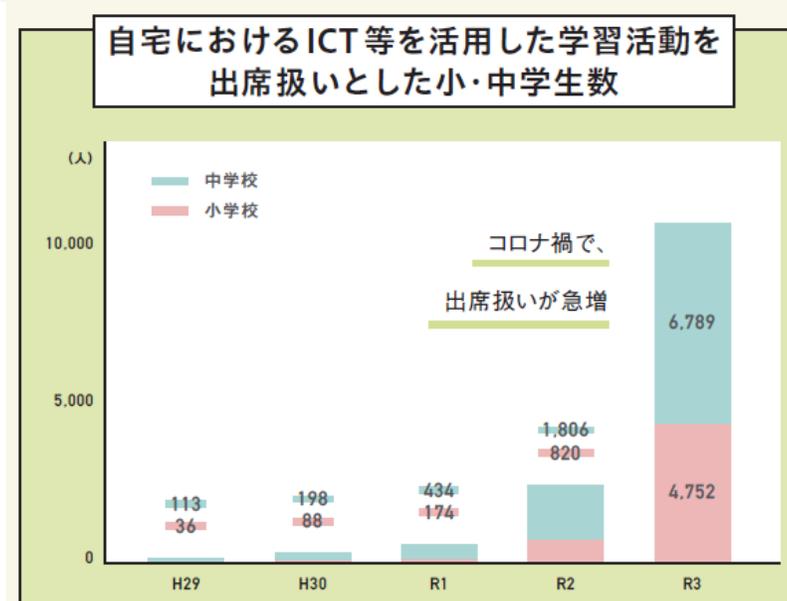
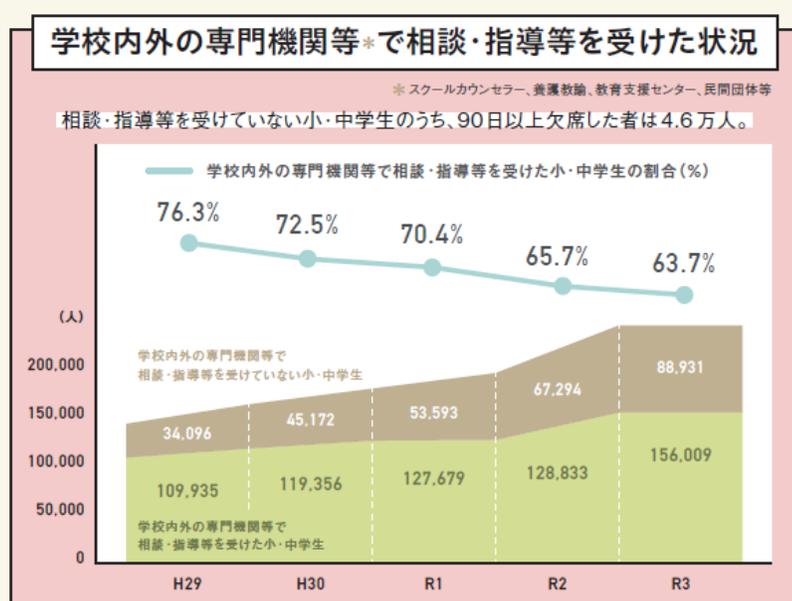
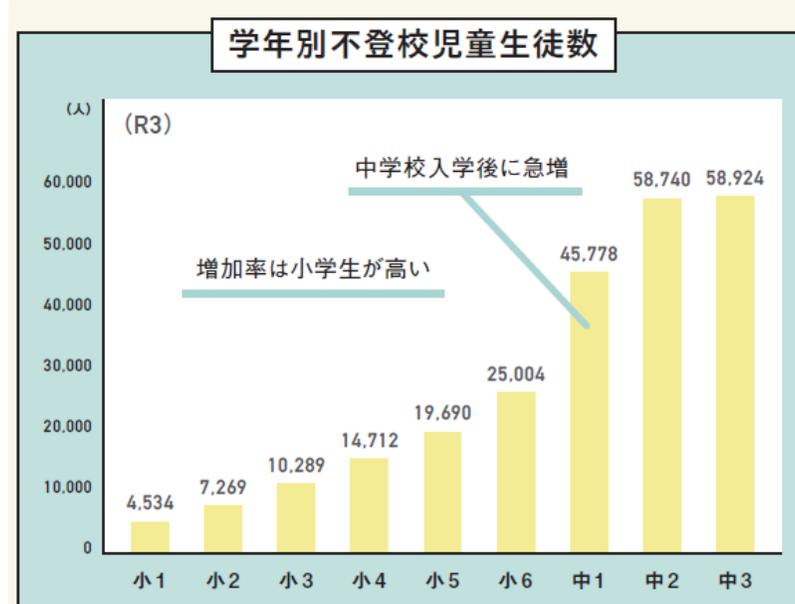
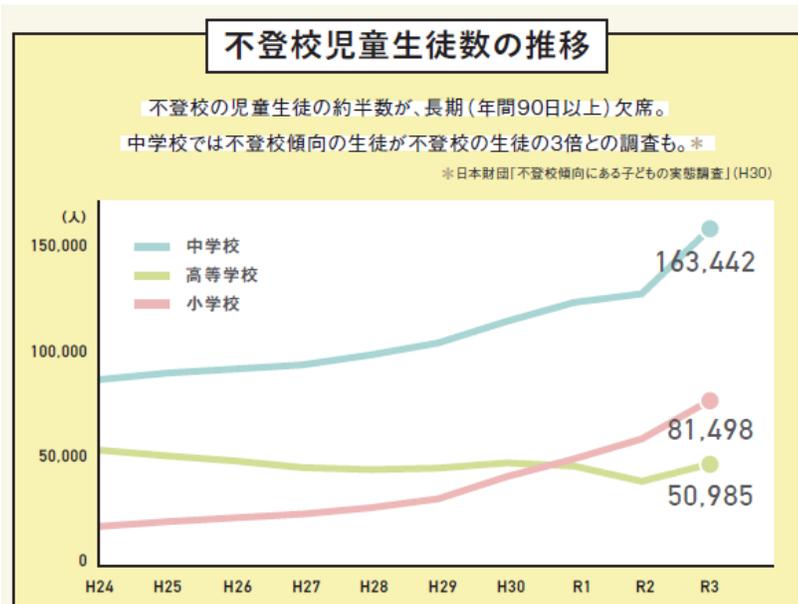
「学びの機会とのつながり」や「人とのつながり」がもてない児童・生徒をゼロにしたい！



不登校の現状（全国）

【資料2】

令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査



小平市における不登校の現状

【資料3】

1 小平市における過去3年間の不登校児童・生徒数

	令和2年度	令和3年度	令和4年
小学校	136人	165人	191人
中学校	176人	248人	270人

2 不登校の学年別内訳（令和4年度）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	8人	18人	31人	37人	47人	50人
中学校	78人	93人	99人	-	-	-

3 過去3年間の不登校出現率の国、都、市の比較

		令和2年度	令和3年度	令和4年
小学校	市	1.35	1.62	1.89
	都	1.06	1.33	1.78
	国	1.0	1.30	1.7
中学校	市	4.31	5.89	6.33
	都	4.93	5.76	6.85
	国	4.1	5.00	6.0

4 不登校の主たる要因（令和4年度）の過去3年間の比較

		令和2年度	令和3年度	令和4年
小学校	無気力・不安	95人	92人	129人
	親子の関わり方	17人	30人	19人
	いじめを除く友人関係	5人	12人	13人
中学校	無気力・不安	72人	145人	204人
	いじめを除く友人関係	33人	32人	14人
	学業の不振	16人	15人	13人

※過去3年間、小・中学校において「無気力・不安」が不登校の主たる要因の第1位

5 過去3年間の不登校解消率の国、都、市の比較

		令和2年度	令和3年度	令和4年
小学校	市	21.3	19.0	24.6
	都	28.7	26.7	29.5
	国	27.7	27.1	27.5
中学校	市	12.5	24.2	22.2
	都	22.2	22.6	21.7
	国	28.1	28.1	27.0

小平市立小・中学校における不登校対応

【資料4】

未然防止 全ての児童・生徒への支援	早期支援 休み始めた児童・生徒への支援	長期化対応 休みが長期化した児童・生徒への支援
<p style="text-align: center;">生活指導部会・校内支援委員会等（全校） 不登校児童・生徒の情報共有及び対応検討、ICTを活用した学習支援</p>		
<p>スクールカウンセラーの配置（全校） 心理に関する専門家による、児童・生徒に寄り添ったメンタルケア（保護者の相談可） スクールソーシャルワーカーの配置（中学校区） 福祉的な視点から関係機関との連携を構築（保護者の相談可）</p>		
<p>校内別室対応（オンライン活用含む）（全校） 学級で過ごすことが難しい児童・生徒に対し、別室で学習指導や相談対応</p>		
<p style="text-align: center;">不登校対応加配（二中・上水中） 不登校出現率が高い学校に教員を加配し、校内で不登校対応の中心を担う</p>		<p style="text-align: center;">新規 チャレンジクラス（不登校対応校内分教室） 「上水さくら学級」 不登校生徒が安心して学校生活を送ることができるような、ゆとりある生活時程を実現し、教員が実態に応じた支援</p>
<p style="text-align: center;">校内別室指導支援員（四中・上水中・花南中） 校内別室指導支援員を配置し、校内の別室であれば登校できる生徒に対して、安心して自己存在感や充実感を感じられる場所を校内に設置</p>		
<p style="text-align: center;">新規 不登校対応巡回教員（拠点校:四中、巡回校:一中、三中、五中、六中） 巡回教員が不登校生徒の支援、魅力ある学校づくり、不登校生徒の支援への助言をすることで不登校の未然防止、支援の充実を図る</p>		
<p style="text-align: center;">関係機関（教育相談室、ティーンズ相談室「ユッカ」、医療、フリースクール等）との連携など 相談体制の整備、不登校の要因における医療的知見、多様な教育機会 等</p>		<p style="text-align: center;">新規 バーチャルラーニングプラットフォーム 「バーチャルスペースこいだいら」 オンライン上の仮想空間を活用し、居場所や学びの場を提供（学びや必要な支援につながっていない児童・生徒対象）</p>
		<p style="text-align: center;">教育支援室「あゆみ教室」 学校に行きたくても行けずに悩んでいる児童・生徒に、学習・相談できる場所を設置し、学校復帰や社会的自立に向けて支援する教室</p>
<p style="text-align: center;">魅力ある学校づくり、特別活動の推進、授業改善</p>		
<p style="text-align: center;">状況把握（不登校児童・生徒個人支援表、問題行動調査、全国学力・学習状況調査）</p>		

令和6年度新規・拡充事業等（不登校施策）

【資料5】

	①校内別室指導教員配置事業 チャレンジクラス（不登校対応校内分教室） 「上水さくら学級」	②不登校対応巡回教員に係る加配	③校内別室支援員配置事業	④VLP（バーチャルラーニングプラットフォーム）「バーチャルスペースこいだいら」
実施時期等	令和6年度新規事業	令和6年度新規事業	令和5年度開始事業	令和6年度新規事業
内容	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒が安心して学校生活を送ることができるようなゆとりある生活時程 実態に応じた支援の実施（個別学習やグループ学習などの指導方法や指導体制の工夫等） 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回教員が不登校生徒の支援、魅力ある学校づくり、不登校生徒の支援への助言をすることで、不登校の未然防止、支援の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の別室であれば登校できる児童生徒に対して安心して自己存在感や充実感を感じられる場所を校内に設置して対応できるよう支援員配置に係る費用を補助する 	<ul style="list-style-type: none"> 学びや必要な支援につながない児童生徒を対象 オンライン上の仮想空間を活用し、居場所や学びの場を提供 児童生徒は自分の分身であるアバターを使って学習や交流を行う
実施規模	都内10地区10校（中学校）	都内108校程度（中学校）	都内60校（中学校）	都内30地区
設置校	<p>上水中学校に各学年1学級（計3学級）設置</p> <p><設置条件></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月末時点で令和5年度に30日以上欠席している不登校者数が10人以上いる学校 <p><教員配置></p> <ul style="list-style-type: none"> 1学級×3学年、3担任+加配1名の4名で学級運営 	<p>拠点校 小平第四中学校 巡回校 小平第一中学校 小平第三中学校 小平第五中学校 小平第六中学校</p> <p><条件></p> <ol style="list-style-type: none"> ①拠点校は、令和5年度以前に不登校対応加配が終了した学校から指定 ②巡回校は、拠点校以外の学校から、令和6年度不登校対応教員加配校を除き、拠点校との移動距離や地理的な事情、学校間の関係性を考慮し設定 ③1年で拠点校の変更、巡回教員の変更も可 	<p>花小金井南中学校（2年目） 小平第四中学校（1年目） 上水中学校（1年目）</p> <p>※四中は不登校対応巡回教員に係る加配拠点校、上水中は校内別室指導教員配置事業設置校のため</p> <p>※支援員の教員免許所有は無（市として教員免許状を有する支援員を任用）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5月末に小・中学校へ周知 東京都がプラットフォームの構築や運営を行い、あゆみ教室の職員が指導・支援を実施 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ①自習用ドリル教材、プログラミング・タイピング教材を使った学習 ②指導員（あゆみ教室職員）、支援員（都職員）、相談員（臨床心理士（市職員））との交流や面談 ③参加児童生徒同士の交流 ※チャットでの会話は記録される ④作品等の掲示物の展示等 ⑤週2回 月・火 午後1時～3時 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒用に120アカウントを用意
東京都実施期間	令和6年4月1日から2年間	令和6年4月1日から1年間	令和6年4月1日から2年間	令和6年5月以降開始

小平市立学校「特別活動」アンケート調査結果

【資料6】

調査期間：令和6年5月28日（火）～令和6年6月24日（日）

調査対象：小学校第4～6学年 5170人、中学校第1～3学年 4401人（合計9571人） ※令和6年5月1日現在児童・生徒数より

調査方法：オンラインにより任意回答

回答数：小学校第4～6学年 4045人、中学校第1～3学年 2977人（合計7022人）

1 自分にはよいところがあると思いますか。

	人数	割合
そう思う	3126人	44.5%
どちらかといえばそう思う	2767人	39.4%
どちらかといえばそう思わない	735人	10.5%
そう思わない	394人	5.6%

2 進んで友達と関わろうとしていますか。

	人数	割合
そう思う	4478人	63.8%
どちらかといえばそう思う	2005人	28.6%
どちらかといえばそう思わない	412人	5.9%
そう思わない	127人	1.8%